



センター通信

〒 123-0873 東京都足立区扇 1-12-20
TEL (03)3856-2728 FAX (03)5939-7880
URL www.wfc.or.jp

全国自立援助ホーム連絡協議会全国大会に於ける基調講演

長谷場 夏雄



日本で最初の自立援助ホームである「新宿寮」ができて55年経った今年は、「全国自立援助ホーム連絡協議会」ができて20年とい

う節目に当たり、去る10月28日東京で、盛大な記念大会が開かれ長谷場専務理事が基調講演を行いました。その折の要旨です。

『自立援助ホームは、高齢児である為に施設に入れてもらえぬ児童や、15歳で施設を出されて、行き先のないロケティーンの青少年を援助・救済するための「家」です。

センターは盟友である「青少年とともに歩む会・憩いの家」や「聖体礼拝会・ミカエラホーム」などと共に、この50年間、この問題と取り組み、一心に働いてまいりました。

自立援助ホームの対象児は、義務教育を終えて施設を出た卒園児童・あるいは、年齢が高いので施設には入れてはもらえなかった児童等ですが、いずれも家庭の事情から社会的養護を必要としている児童です。彼等（彼女等）は通常就労しているか、それをやめた「状態」にあるものが多く、ほとんどが就労の継続を希望しております。

自立援助ホームはこうした児童をお預かりして、日夜、生活をともにしながら、彼等の就労を援助し、社会自立の達成を援助します。又、その為に共同生活の中で、自分の身の回りのことや、生活に必要なことなどを習熟させ、仲間との協調、規則正しい健康な生活を学び、市

民としてよりいっそうよい生活ができるよう、怠りなく指導・援助するものです。

つまり自立援助ホームは、職員と生活をともにしつつ、社会人としてどう生活し、そしてどう働いて行くか・・・を身をもって習う場でもあるのです。

社会に出て特に大切な「パンクチュアリティィー」や、他人への言葉使い、挨拶の仕方等々、彼等が社会にでて就労し、生きてゆく為に必要な全てについて伝える努力を致しています。

又、自立援助ホームは、いきなり後ろ盾もなく社会に出て就労しなければならぬ児童に少しでも役立つ「準備の場」を与え、そこで経験する様々な問題を共に考え解き明かす貴重な場でもあります。

彼等の日々の就労に寄り添い、日々感じとってくるであろうさまざまな疑問を語り合うことにより、彼らの不安も解消することでしょう。こうして就労、社会生活の始めのある期間、人生の先輩とともに過ごすことは、社会人への軟着陸へのよき助けとなるのです。

自立援助ホームは、働く子ども達への養護であり、その意味では最終的養護でもあります。

最後にこの事業の対象児童ですが、前述したように彼等は、人生においてもっとも困難な時期とも言える思春期・反抗期の最中です。私たちの対応としては、やはり王道ともいえる「対象児童との信頼関係の造成と構築」以外にはありません。対話・・・「聞くこと」に徹すること。相互理解だけが信頼を生む。それには、われわれが彼等の考えをひたすら聞き、その考えを探ること・・・聞き続けること・・・それしか答えはないのです。』

長谷場専務理事の上半期の動向

4月 1日	新任職員研修	9月 28日	清周寮祭参加
6月 28日	石神井学園職員研修	9月 30日	自立援助ホームあすなろ荘訪問
7月 6日	おうぎ寮祭参加	10月28日	全自援 全国大会 基調講演
8月 26日	ラジオ収録	11月 3日	訓練校OB会参加
8月 28日	新宿寮・清周寮職員と意見交換	11月 4日	児童養護施設希望の家
9月 18日	自立援助ホーム憩の家 訪問		高齢児合宿研修

近況報告

自立援助ホーム 新宿寮のようす (定員男子 15 名)



新宿寮には現在、定時制高校と大学の学業に励む利用者がいます。限られた時間しかないため、アルバイトと学業の両立をこなして卒業を目指しています。

定時制高校生は、日中できるアルバイトをしたあとに定時制高校に通う毎日を過ごしています。部活に所属する場合は、帰寮が23時を越えてしまい、そこから入浴など就寝準備をするため、翌朝はねぼけまなこでアルバイトに向かいます。そのため、遅刻欠席が多くなったり、友人に流されたり、卒業できずに退学となる利用者もいます。

大学生も夕方からアルバイトに通っている為、帰寮は23時を越えてしまいます。しかも、それから夕食、入浴、勉強を済ませ、就寝は深夜2時を過ぎることもあります。大学生として在籍し、20才で退寮となっても、卒業までの残りの2年間は基本的には自分の力で生活する必要があります。

最近、社会的養護のもとで生活する児童の進学を支援する奨学金などが徐々に整備されてきています。進学する目標を後押しする原動力にはなっていますが、奨学金だけでは生活が成り立たずにアルバイト中心となるような生活をしたり、家族からの支援が受けられずに生活場所が確保できなかったり、卒業までにまだ多くの困難があります。

児童の意思を尊重して、卒業に向けた支援に力をいれて、希望をもって生きられるようなより良い自立をサポートしていきます。フレー！フレー！新宿寮生！

自立援助ホーム 清周寮のようす (定員女子 15 名)



9月28日に、隣接している暁星学園ほきまホームと合同で「竹ノ塚地区祭」を開催しました。毎年恒例の清周寮祭にほきまホームのOGも参加するという、今年度からの試みです。

毎年参加して頂いている卒寮生のご夫婦は「バザーが楽しみで」と仰り、たくさんお買い物をしていってくれました。お子さん連れで参加している卒寮生は、年々大きくなるお子さんの成長の様子を話してくれました。つい数か月前に自立していった卒寮生は生活の様子や仕事・恋愛の様子など報告をしてくれました。職員・在寮生が総出で作った食事や、ご寄附で頂いた「おみやげ」の数々を持ち帰る姿を見ると、“実家”としての役割を果たしているのかな、と感じました。

中でも印象的だったのは、障害者福祉の仕事をしている寮生が、同業の専門学校に通っている卒寮生に資格や進学について相談している場面です。在寮生と卒寮生が繋がりを持つ瞬間となりました。この他にも在寮生も多数参加し、卒寮生の生活の様子を見ることで、改めて自分自身の将来について考える良い機会となった様子でした。

今回から恒例の“寮祭”を清周寮・暁星学園ほきまホーム合同開催することで、長谷場専務理事の掲げる、竹ノ塚故郷構想に一步近づけたのではないかと考えています。

自立援助ホームおうぎ寮のようす

(定員 男女6名)

生活・・・基本的に食事は職員が用意しますが、掃除・洗濯等は自分で行います。居室の掃除については、月に1度は職員が確認することになっています。また、自立訓練として、自分で買い物をして調理の練習をする利用者もいます。

仕事・・・仕事は長く続くことが理想ですが、1～2ヶ月で退職する場合もあります。在籍寮中に職を変えることも良い経験になり、自分に合った仕事を見つける良い機会となります。

資格・・・高校を中退した利用者も多くいます。その場合は高校卒業認定試験を受験して、高校卒業の資格を取得することを勧めています。また、自動車の運転免許を取得する利用者もいます。運転免許証は仕事にも有利なうえに、身分証明にもなるので生活にも役立ちます。

外泊・・・親元に帰れないことが多いので、友人宅に外泊することが多いです。月に1度友人宅に外泊することを楽しみにしている利用者もいます。

行事・・・月に1回程度企画していますが、最近の仕事の都合が合わず、全員参加の行事は実現していません。

会合・・・月に1回寮生ミーティングを行います。全員が参加して、自立に役立つ知識の勉強や行事や生活について話し合います。最近では、「金銭トラブル、大人のマナー、コミュニケーション」について皆で学習しました。

期間・・・在寮期間は人によって異なりますが、半年から2年程度です。お金を貯めて早く退所したい、できるだけ長く(最長20歳まで)利用したい等利用者によって考え方は様々です。



児童養護施設 暁星学園のようす

(定員 男女36名)

来春1月より、足立区南花畑にて男子のグループホーム(名称みなみホーム)を新規に開設します。設立目的は、足立特別支援学校およびその他の学校に通う利用者に対して、学校と連絡を密に取りながら、日常生活と学校生活を連動させつつ、高校生活の3年間で完結する就労支援を行い、社会的自立を目指すことです。

より具体的には、3年計画の自立支援プログラムを基にして、就労自立ができる児童の育成を目指します。児童ごとの状況に合わせて、①自己管理、②対人関係、③社会性、④金銭管理、⑤健康管理、⑥協調性を上げる取り組みを実施していきます。3年後には、彼らが生活全般の主役として活躍し、自主的かつ建設的で、家庭的な訓練の場となるようにしていきたいと考えています。また、ご近所付き合いを積極的に行い、地域から支えられるようなグループホームを目指します。地域活動、美化・防犯活動に奉仕して、利用者および職員が近隣から可愛がられるような存在となるよう努力して参ります。



新規開設によって本園3階および4階の定員が9名から6名に変更になります。フロアの定員を3名下げることによって職員と共に過ごす時間が増えることも考慮の上です。学園ではこのように、彼らの最善の利益を第一に考えて、事業を展開して参ります。今後ともどうぞよろしく願いいたします。



児童養護施設 あけの星学園のようす

(定員 男女 20 名)



こでまりホームが開所してから 5 年間に経過しました。多くの児童が利用し、社会的自立を果たしたり、親子間の溝を埋め、家庭復帰を果たしたり等、各々の進路に向かい退所して行きました。

家庭的養護の実践を目的とし、本園施設とは距離が離れた場所の一軒家での養護実践は、私達職員にとっても多くの学びを得る機会となりました。

こでまりホームから巣立った、利用者も時々元気な顔を見せてくれます。必ずしも現在の生活が順調に進んでいる話ばかりではありませんが、それでも逞しく生きていく姿を見て心配し、応援しつつ、その逆境にも負けず生き抜こうという姿勢には尊敬するばかりです。

25 年度も半ばを過ぎ、高校 3 年生は就職活動に日々追われております。当園では女兒 6 名が全員就職活動中であり、その内 3 名がこでまりホームです。11 月上旬の現在、既に 2 名が企業への就職内定を果たし、4 名は毎日のように学校の求人案内とにらめっこし就職面接を繰り返しております。企業面接に出発する際のスーツ姿を見ると、初々しい中にも社会人の雰囲気漂い、いつの間にか社会人になる準備が出来ていたのかと驚くばかりであります。

卒業時までにはそれぞれ進むべき将来に向けて

一歩を踏み出すこととなりますが、その間希望の進路に向かえる様に全力で支援し、自立後もいつでも帰ってきて相談し、心を休めることが出来る場所であり続けられるようにしたいと思います。

共同生活援助 ノエルのようす

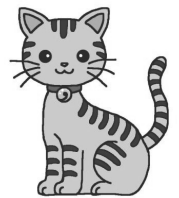
(定員 女子 5 名)

3 名の利用者はそれぞれに違う仕事に就き、休日も別々ですが、たまには休みを調整して、揃って外食に出かけたりもしています。

その内の 1 名は大の猫好きです。近所に以前からいる野良猫をかわいがっています。借家ですので、猫は勿論ペットの飼育は禁止ですが、外なら大丈夫という彼女の理論により、キャットフードを自分のお金で買い、玄関先に段ボールで猫の家まで作ってしまいました。休みの日には、猫と過ごす時間も長く、寒い日に薄着で玄関を出たり入ったりしたために、風邪を引いた事もあります。

彼女の希望は猫と一緒に住む為の一人暮らしです。仕事はきちんと続いていますので、日々の生活が一人で出来る事が大事な課題です。お料理を職員と共に作ったり、ゴミ出しを決められたルールで出す事もできてきました。洗濯は、すぐにネットが猫の毛だらけになるので、それを掃除する事も教えています。彼女はいつでも帰ってくると荷物を置いて直ぐにでも会いに行き、猫をだっこしてかわいがりますが、この頃は彼女のしつこさに猫の方が辟易しているようにも見受けられます。猫と一緒に自立するのは彼女自身の努力やペットと共に入居できるアパートも探さなくてはなりません。そして、何よりも猫ちゃんが一緒に行きたいのかどうかです。

一人暮らし以上に難しい自立への道ですが、皆で見守っています。



赤い羽根共同募金が終わって

今年は、あけの星学園が担当事業所となり、10 月 2 日午前 9 時から夕方 4 時頃までの予定で、高田馬場駅前にて各事業所から職員を募って実施しました。当日は台風が接近していたため、朝からあいにくの雨模様で、駅を通る通勤の方、学生の

方の足取りも早く、募金活動をおこなう上では余り良い日和ではありませんでした。

ところが街頭募金活動に立った職員の願いが通じたのか昼頃から天候は回復し、足を止め募金をしてくださる方が徐々に増えて参りました。年配

の女性、お子さんを連れてお母様、学生、サラリーマンの方、大変多くの方々から暖かいご寄付を頂き、職員一同本当に心が洗われました。

結果的には事前に用意した赤い羽根 300 本は 3

時前に全てなくなり、募金活動を終了することとなりました。

この度の募金活動に際して、募金をして下さった多くの方々に、改めてお礼を申し上げます。

共生の森での林業体験

当法人の後援者として継続的にご支援を頂いている西北ロータリークラブの皆様と職員、利用者の総勢 30 余名で共生協働の森へ行きました。

今回初参加の児童は、「東京にもこんな木々がまだ残っているんだ」「空気が美味しい!」「景色が超キレイ!」と大自然を存分に満喫していました。また、今回の目的である下刈りにおいても、職員を含め全員が初体験で、その苦勞を身を持って体感しました。木工体験では、児童の多くが関心を寄せ、丸太切りや、懸命に木製のコースター等を作成しました。こうした経験が児童の心を豊かにし、将来は社会へ巣立ち、1人の大人として逞しく生きる、そんな姿をつい想像してしまいます。

今後も、児童の安全と安心を第一に健やかな成長を支える当法人として、応援していきたいと思っておりますので、後援者の皆様の惜しみないご協力を頂けますよう、どうぞ宜しくお願い致します。



職業訓練校 OB 会



11月3日(文化の日)に「長谷場先生を囲む会」を開催しました。暁星学園の前進である職業訓練校は、昭和46年に開校し、平成15年の休校に至るまでの32年間に多くの卒業生が巣立ちました。しかし、残念ながら一度も同窓会が開催されることなく今日に至りました。そこで、今後の定期的な開催を目指して、先生がお元気なうちにと第1回目を計画しました。数名の卒業生と元職員が集まり、現在でも連絡が取れる仲間と比較的年齢が高い卒業生を中心に声を掛けました。体調不良や仕事で出席できない卒業生もいましたが、

当日は、先生や奥様をはじめとして、第1期～13期生や元職員、家族の方を含め29名が参加しました。遠くは茨城から駆け付けくれた卒業生もいました。先生や仲間と30年、20年振りの再会に喜び、昔話に没頭し、会場のあちらこちらで大きな笑いが絶え間なく響いていました。皆の職種は色々ですが、中でも自動車整備工場を足立区と八潮市で経営している2人の卒業生がいます。修理のご用命がありましたら、一声掛けて頂ければ幸いです。

(法人本部 昭和52年入職 権藤聖一)

長谷場先生のお元気な姿を見て、仲間が頑張っている話を聞いて、負けてはいられないという気持ちになりました。職業訓練を通して、どんな仕事でも継続することの大切さを学び、それなりに頑張っているつもりでしたが、84歳になる先生のお姿は「俺も頑張る。お前たちも負けるな。」という無言のメッセージが伝わってきました。先生と奥様、仲間達のご健康と会の発展を心から願います。

(第8期生 整備科 隈部昭好)

おうぎバザー

10月12日(土)に足立区扇の暁星学園敷地内にてバザーを開催しました。7月に引き続き、今年度2回目の開催です。当日は、10月としては異例の30度を超える大変暑い日となりましたが、沢山の方々、お子様にお越しいただき、大盛況のうちに終える事ができました。また、7月に引き続き、地域のボランティアの方々にもお手伝いをいただき、開催を支えていただきました。なお、売上金は例年通り、退所した児童のアフターケア費として活用させていただきます。

来年度につきましては、長谷場新宿寮工事のた

め、開催時期は未定となっております。決定次第、ホームページ(<http://www.wfc.or.jp/>)等でお知らせいたします。



他団体へのバザーの参加

秋といえば、芸術・スポーツ・食欲等と言われていますが、当法人にとっては、「バザーの秋」です。ご支援者様からお寄せいただいた品々を、外部団体のバザー等で販売して参りました。

「宮代祭」9月14日(土) 聖心女子大学同窓会主催
「フェスティバル・ラティノアメリカノ」11月1日(金) 日本・ラテンアメリカ婦人協会主催
「ILBS クリスマスフェア」11月17日(日) 国際福祉協会主催

おかげさまで、どのバザーも大盛況でした。広く法人を知っていただき、理解を深めていただく機会ともなりました。品物をご寄附下さった皆さま、仕分け・販売して下さったボランティアの皆さま、会場を提供して下さった団体の皆さま、ま

た、ご購入下さった皆さま、本当にありがとうございました。

来年度は、当法人後援会主催・聖心インターナショナルにて行う大規模なバザーを7月12日(土)に開催予定です。ご自宅でご不用な贈答品などがございましたら、ぜひご協力をお願いいたします。



長谷場新宿寮 着工に向けて

現在進行中の新宿寮の移転新築工事につきまして、去る9月28日近隣説明会を実施いたしました。

説明会では、地域の方々に今回の計画についてのご理解を深めていただき、今後も工事の進捗に合わせ話し合いの場を設けて参ります。補助金も認められ、12月には着工予定の運びとなりました。

地域の方々のご理解がなければ、施設を運営

してはいけません。施設ができてから50年近く、地域の方々にご支援をいただき運営してまいりました。今回建設いたします新宿寮は、地域に開かれ、また還元できるよう1階部分に地域交流スペースを設置予定です。新たな新宿寮が地域の方々へ交流の場を提供できるよう、職員一同努めて参りますので、ご協力お願いいたします。